

初學日本文典

物集高見著

下

ホ 2

140

2



同會

利門 140 卷 2

初學日本文典卷之下

接辞

豊後

物集高見 著
根本真苗 校

接辞ハ事物ヲ接續シ及ビ文脉ヲ上下ニ通ズル媒介ニ用
ル者アリ形状言ヲ兼ル者アリ又接辞ト接辞ト連続スル
者アリ實體言ヲ兼ル者ハ「人の」「月と」虚體言ヲ兼ル
如シ而シテ接辞ニ實體言ヲ兼ル者アリ虚體言ヲ兼ル者アリ
假體言ヲ兼ル者アリ代名言ヲ兼ル者アリ作用言ヲ兼
ル者アリ

初學日本文典

者ハ「夢に」「心は」假體言ヲ兼ル者ハ「思ひを」「樂み
に」「代名言ヲ兼ル者ハ「我が」「汝は」作用言ヲ兼ル者
ハ「問ふに」「學ぶは」形狀言ヲ兼ル者ハ「近きに」「麗
まきは」接辭ト接辭ト連續スル者ハ「をは」「もぞ」
如シ此接辭ハ其用法ノ差異ニ隨テ之ヲ左ノ各種ニ區別
ス

○接辭ノ種類

- | | | | |
|----|-----|-----|-----|
| 第一 | 嘆辭 | 第十一 | 反辭 |
| 第二 | 希求辭 | 第十二 | 兩辭 |
| 第三 | 命令辭 | 第十三 | 分量辭 |

- | | | | |
|----|-----|-----|------|
| 第四 | 禁止辭 | 第十四 | 想像辭 |
| 第五 | 指示辭 | 第十五 | 決定辭 |
| 第六 | 現在辭 | 第十六 | 比准辭 |
| 第七 | 過去辭 | 第十七 | 助辭 |
| 第八 | 將來辭 | 第十八 | 句頭接辭 |
| 第九 | 否不辭 | 第十九 | 一種接辭 |
| 第十 | 疑辭 | 第二十 | 崇敬辭 |

接辭ニモ亦格アリ將然。連用。假體。截斷。連體。已然。ト云フ全
ク作用言ノ格ト其義ヲ同ス然レト接辭ハ固ヨリ體用ニ
語ノ媒介ニ用フルノ三ニテ獨立スベキ辭類ニ非ザルヲ

以テ體用ヲ兼接セシ上ヨリ觀ルニ非ザレバ其格ノ如何ハ之ヲ明知スルニ由ナシ故ニ先ヅ各種ノ體言及ビ用言ヲ兼ル表ヲ舉ゲ逐次ニ其下ニ連續スル格ト用法トヲ詳悉スベシ

體言ヲ兼ル接辭

此表中ニ掲出スル接辭ハ實體言ノ「ひと」虚體言ノ「こころ」假體言ノ「あそび」「たのまさ」代名言ノ「われ」ト云フ辭ヲ以テ例ヲ古書ニ徴シ一々ニ推シ試ミシ者ニ係ル而メ體言ハ實體言ノ外ハ大率其辭ニ因テ連續スル者ト否ラザル者

トアリ譬ヘバ數辭及ビ聲音等ハ同ジ虚體言ナレ
凡僅ニ一個ノ接辭ノミニ係リテ數辭ハ「ひと」
量辭ノ「つよ」係リ聲ト音トハ「ひよ」
「つよ」ト「つよ」ト兩辭ノ「ひよ」
連續セズ又「われ」「なれ」ト「あ」「な」トハ同
ジ代名言ナレバ「われ」「なれ」ヲ兼テ「わ」「な」
ヲ兼ザル者アリ指示辭「われ」「なれ」
ク可レ「め」「あ」如シハ兼此類ノ如キハ一辭一辭ニ就テ
其例ヲ舉ル能ハズ然レバ體言ヲ兼ル接辭ハ此表
ニ載スル者ノ外ニ在ルコトナケレバ其兼ルト兼
ザルトハ其辭ニ就テ推シ試ミバ自ラ明瞭ナル可

あはれ え

上下ニ關係ノ格ヲ有ツ嘆辞ハ其數九個ニシテ左ニ示ス
如シ

各種體言ト作用形状連體
截断及ヒ四段ノ命令言ヲ兼ク

ヤ 連體

各種體言及ヒ作用ノ截断
連體ト四段ノ命令言ヲ兼ク

よ 截断

蝶ヲ花ヤ
鳴ケヤ驚
物を思ふよ
心細さよ

此よト命令辞ノよトハ常ニ甚ダ紛ヒ易シトを去ヘ
よト「な」ヘよトノ如シトを去ヘよトノよハ
命令辞ニシテ「な」ヘよトノよハ嘆辞ノナリス

如ク同辞同格ニ截断ノ格ニテ二種ニ分ル者ハ其未

ル辞ノ格ノ異ナルニ因ル乃チ命令辞ハ將然ヲ兼ケ

嘆辞ハ命令ヲ示ス辞尾ヲ兼ル者トス詞ニ逸史ノ詔

聞食倍與止宣者ニテアル與モ命令ヲ示ス

實體虚體代名ト四段
形状ノ截断トヲ兼ク

も 截断

實體虚體代名ト四段
命令言トヲ兼ク

と 截断

作用形状ノ截断ト四段
命令言トヲ兼ク

な 截断

我は悲志も
限り知らぬも
妹待つ我を
船渡せと
船出悲志な
我は知らぬな

作用ノ將然ヲ兼ク
ハヤ 截断

人に見せばや
聲を聞かばや

命令辞

命令辞ハ「勉めよ。」「教へよ。」ノ如ク作用ノ活用辞
ニ附テ他ニ使役ヲ與フル作業ヲ見スニ用フル辞トス

作用ノ將然連用ト兼ク
示辭ノセトヲ兼ク
收 截断

絶えなば絶えぬ
雨な零りそぬ

作用ノ將然ヲ兼ク但シ
四段ノ將然ハ兼ク
よ 截断

思出に為よ
立出て見よ
若菜摘まむ

作用ノ將然
ナリ 截断

作用ノ將然ヲ兼ク但シ
四段ノハ連用ヲ兼ク
こそ 截断

霜は置かむ
夢に見えこそ
人に告げこそ

こそハこそこそトモ活用シテ萬葉集ニ「散りこそ
かちやゆめとせぬ」ト云ヘバ禁止辞ノナリ
キ願フ義モ亦「勿ズトこそト云ヘバ否不辭ノぬ及ビ
希求辞ノぬニ連続ス

禁止辞

禁止辞ハ「往くな。」「打つな。」ノ如ク他ノ作業ヲ
禁ズルニ用フル辞トス

作用ノ截断
ヲ兼テ
な截断

花を折るを
戯を為す

此截断ノなヲ或書ニ雅言ナラズト云ヘリ然レ氏古
今集 絶「我を恨むな」夫木集 踏「牛の子に草庵集」謀
等ニ載タレバ其鄙語ナラザルヲ証スベシ又此を
ハ稀ニ連體ヲ兼タル者アレバ散木集ニ「ハ落るな」
普通ノ例トハ觀ル可ラス

各種體言ノ作用形状
ノ連體ト兼テ
な連用

人な谷ぬそ
吹な散るそ

此連用ノなハ禁止辞ノをト對スルハ普通ノ例ナレ

氏或ハ其をヲ省クアリ萬葉集ニ「雲を霏霰き」
我無まとな。侘び」ノ如シ

禁止辞ノ連用ヲ兼テ
作用ノ連用ヲ兼テ
な截断

痛くな侘びそ
聲を聞かせそ

此をハ命令辞 ぬニ係テそ ぬ 萬葉集「雪を踏みぬ」
嘆辞ノやニ係テそ 新拾遺集「神の駒よニ係テ
そ」源氏若菜卷ニ「まもニ係テそ」古今六帖ニ「
り」雨を呼ブアリ

指示辞

指令辞ハ「京に」田舎へ「是れぞ」其れぞ」ノにへ

ぞノ如ク其事物ヲ指示スルニ用フル辞トス

各種、體言、作用形、
状、連體トテ兼ク

に 連用
假體

欄子に倚る
物と思ふに

實體、虛體、代名
ヲ兼ク

へ 連用
假體

人の許へ
東の方へ

の 連用
假體

秋草の花
月の照る

此のニ「の如く」ト云フ意ト「の者」ト云フ意

ハト「とニ通フ」ハト「がニ通フ」ハト「アリ」の

如ク「人意ハ古今集ニ「逝く水の早くぞ」ハ「逝く水

ぞノ早ク「松の葉の何時とも分かれ」何松ノ葉ノ如ク

意「の者」ノ意ハ千載集ニ「世の常のとや」

ト世ノ常ノ者佛足石歌ニ「常のも在れど」常ノ者モ

意「とニ通フ」ハ貫之集ニ「春の共に志別る丸

ば「春レ共ニ意別古今集ニ「秋霧の共に立出て」

立霧ト共意「がニ通フ」ハ古今集ニ「水の上に

浮べる舟の君ならば」水ノ上ニ浮ベル舟金葉集ニ

「待つ人の大空渡る月ならば」待ナツ人ガ大空渡ル

ノ如シ総テ用言ニ連続スルハ皆ガニ通フ者トス

古今集ニ「志賀の山越よて女の多意ナリ又此のハ

嘆辞ノヤニ係テのヤト云ヘルアリ見萬葉集ニ堀川

の百首ニ錦類

實體虚體代名ト作用
形状ト連體トヲ兼ク
カ
連假體

我が立濡れ去
見るが樂去さ

各種體言及ヒ作用形状連用
連體ト作用ノ已然トヲ兼ク
ぞ
連用

雪ぞ零るなる
風ぞ吹くなる

各種體言ト作用形状
ノ連體トヲ兼ク
ぞ
截断

益荒武夫ぞ
夜は真夜中ぞ

截断ノぞハ假體ニ用フルアリ古今集ニ何ぞは

善けく風雅集ニ人にはさぞのなからま去かは

ノ如シ

各種體言ト作用形状
ノ連體トヲ兼ク
と
連用
假體

朧月を觀る
山路を行く

各種體言ト作用形状
ノ連用連體トヲ兼ク
は
連用
假體

旅は憂去
露は深去

此はハ嘆辞ノヤニ係テはヤ古事記ニ吾嬬は

係テはヨ神武妹紀はニ妹もニ係テはも古事記ニ問

古今集ニ雪ト呼ブアリ然ニ嘆辞ノヤニ係ルは

やニ紛ヒ易キ者アリ乃チ疑辞ノヤニ係レル其レナ

り萬葉集ニ我はや戀む然レバ疑辞ノヤハ連用テ

嘆辭ノヤハ截断ナレバ其格ヲ推サバ自ラ明瞭ナラ

ン

各種ノ體言及ビ作用形状ノ連體ト作用ノ已然トヲ兼ク

こそ 假體

我こそ教ふれ
汝こそ習へ

此こそハ假體ノ格ヲ有ツヲ以テ疑辭ノヤニ係テこそヤト云フアリ
ぬ拾遺集ニ「我こそそや見其やハ連用ノ格ヲ有テルヤナリ

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク

なむ 連體

花なむ開きける
是れなむ花なる

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク

なも 假體

神になも在りける

此なむなもハ共ニ上ノぞ。連ニ通ヒテ其用法全クぞ。

ニ異ナル一無シ
神をなも祭るなる

現在辭

現在辭ハ「往きて觀る」「來て聽く」「思ふなる」「馴るるなり」ノてなるなりノ如ク方今ノ時ヲ見シ又「然なり」「斯くなる」ノ如ク否不辭ニ對シテ事物ノ然カ在ルヲ示スニ用フル辭トス

各種ノ體言及ビ作用形状ノ連體ト作用ノ截断トヲ兼ク

なら 將然

此人ならむ
彼書ならむ

此ならハ現今其事物ノ然カ在ルヲ示ス辞ナルヲ以テ亦作用言ヲ兼ルキハ其活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

各種體言及作用形状ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ク
なり
假連用
截斷

各種體言及作用形状ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ク
なる
截斷
連體

各種體言及作用形状ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ク
なれ
已然

此ならなりなるなれハ「にあ」ノ約レルなノ良行

蟲の聲をなり
風の音をなり
人ぞ告ぐなる
我ぞ聞くなる
都なれば賑ふ
鄙なれば閑雅たり

ノ四段ニ活用セル辞ニテ固ヨリ主トシテ時ヲ見ス
ベキ辞類ニハ非ザレドなりなるノ如キハ自ラ方今
ノ時ヲ示シならなれノ如キハ自ラ未來ト過去トヲ
示ス者ハ蓋其四段ニ働クヲ以テ作用ノ活辞ト同ジ
時ヲ見ス者ナリ或説ニ此辞ハ「音をなり」ト聲ハ
断ヲモ兼ルヲ見レバ「ト」ニ「ア」ニ「シ」ニ「ハ」
ズシテ尚其所由アラント實ニ此説ノ如クハハ截
ヲ兼ガル辞ナレバ別に所由アルベシト雖モ
今ハ姑ク奮記ニ基テ「にあ」ノ約トセリ
て
假連用
てむ
てめ
てな
幕れて歸る
明けて出づ

作用形状ノ連用ヲ兼ク
て
假連用
てむ
てめ
てな

てハ連用ノ格ヲ有ツヲ以テ指示辞ノハニ係テては

萬葉集ニ植ニはシ敷冬ト云フヲてばニ混ズルトアリ玉辭の
 宿に植ニはシ敷冬ト云フヲてばニ混ズルトアリ玉辭の
 是モ巴ニ混ジテ古今集ノト無き名取リテ抑テハ將ハ
 然ノ格ヲ有ツニ非ザレバハニハ係ラザルヲ種ハ接ハ辭一
 ニテ將然テばト云フ連續ノ辭アルハ此テニ非ズシシ
 ヲ兼ル格テばト云フ連續ノ辭アルハ此テニ非ズシシ
 テトてあらシノ約レルニたラたニ轉ゼシ者ニ省テ更其
 例ハ形状ニ同ジ者ナリ故ニ其テばノ下句ニハ必ズ將ト
 二變形ニ同ジ者ナリ故ニ其テばノ下句ニハ必ズ將ト
 來辭アリテ應ズル例ナリ古今集ニ梅ハ香を袖に
 とも記念をらままシ紫式部日記ニただならまと
 ばかり叩く水鶏ゆあけてばいかに悔まからまとま
 是ヲ以テテはトてばトノ差別ハ其將來辭ノ應ズルト
 ト否ラザルトニ因テモ亦明瞭ナリ古今集ハ無きハ

てハ非ザル故ニ下句ニシ苦まかりけりてハ
 テハ將來辭ノ應ゼザルナリ若シ此今集ノ歌ハてハ
 ナラマシカバトコノ言ハ必ズカ苦まからまとま
 約レルテハ特リハニ係ルノミナラズ種々ノ將然ヲ
 兼ル辭ニ係ルト左ノ如シト
 てハむハ貫之集ニ暮らまてむハみハ
 てハめハ古今集ニ折りてハめハそハ
 てハなハ萬葉集ニ潮干の際
 てハまハ新古今集ニハ言ひてハまハをハ
 又稀ニハ否不辭ノぬニ係ルトアリト
 てハぬハ後撰集ニてハ斯くながら散らおり世
 去ハ

見るべ

此類ノてヲ若シ「てあら」ノ約ナラズトセバ一々
古書ニ徴シテ其辞ヲ説キ試ミヨ自ラ理會スル所ア
ルナル可シ

作用連用
ヲ兼ク
と連用

意と繁みと
其所も飽にと

此トハてノ轉音ニテ其兼ル作用ノ活辞ニてト同ク
現在ノ時ヲ見ス者トス

過去辞

過去辞「讀みき」「習ひけり」「讀みてき」「習ひに

リ「きけり」にきにけりノ如ク作用ノ活辞ニ附テ其
業作ニ過去ノ時ヲ見スニ用フル辞トス

作用連用
ヲ兼ク
け將然

旅のけ長さ

此けハ來經ノ約ニテ來經ハ古事記ニ「あら萬葉集
たまの月は來經ゆく」「君が往きけ長くなりぬ」ノケナリ即チ年月ノ
經過ヲ云フ辞ナリ

作用連用
ヲ兼ク
け將然

所折けらむや
過にけらむや

此けらハ次ノけりけるけれト同ク來經ノ約レルけ

ノ良行ノ四段ニ係リテ働ケル辞ナレバ已ニ其事物
ノ來經アラン一ヲ云フ辞トス故ニ「過」にけらむや
ノ如キモ想像過去ヲ見ス者ナリ
其例ヲ見ズ故ニ反辞ノヤニテ「過」に兼ケタル者ハ外未ダ
ナレハナリト

作用ノ連用
ヲ兼ク
けり 截断

春は立ちけり
花は開きけり

此けりハ來經ノ約レルけノ良行ノ四段ニ係リテ働
ケル辞ニテ作用言ヲ兼レバ其活辞ニ過去ノ時ヲ見
ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク
ける 連體

老ぞ竟てける
若かりける人

作用ノ連用
ヲ兼ク
けれ 已然

月こそ出でけれ
夜こそ明けけれ

此けるけれモけりト同ジ活用ノ辞ニテ作用言ヲ兼
レバ其活辞ニ過去ノ時ヲ見ス者トス
或説ニ此けらけりけるけれハ來有るれノ約レル
者ナリト云ヘリ若シ然ラバ「來有」ト續タル辞
モアルベキヲ上古ハ更ナリ中古ノ書ニ於テモ所
見ナキノミナラズ果ノ此説ノ如クナラバリニ係

ケズシテ直ニケ。ヨリ他辞ニ係ケテ「け。長志」ト
云フモ尚其け。ハ來有ノ約レル者ナリト為スカ長け。
志ノハヨ來有ノき。然ル時ハ亦其辞義ハ如何ト為
トモ言ザル可ラズ然ル時ハ亦其辞義ハ如何ト為
カス決シテ為ス下能ザルベキヲ以テ其説ノ非ナル
ヲ知ル可シ

作用ノ連用
ヲ兼ク
「けむ」
截斷
連體

讀み初めけむ
習ひ始めけむ

作用ノ連用
ヲ兼ク
「けめ」
已然

花こそ開きけめ
月こそ出でけめ

作用ノ連用
ヲ兼ク
「けま」
截斷
假體

語りけま

思ひけま

作用ノ連用
ヲ兼ク
「けま」
截斷
假體

通ひけま
思ひけま

此けむけめけまけまけま志モ上ノ來經ノ約レルけ。
將來辞ノむ。めま。ま。ま。志ト連合シテ成タル者ナリ故
ニ其將來辞ノ接續スル為ニ此四辞ノ兼ル所ノ作用
言ハ皆其活辞ニ想像過去時ヲ見ス者トス而ノ此け
むけめけま。くニ紛ヒ易キ者アリ即チ「安をけむ」
惜志けめ「又志けま」ノけむけめけま。く其レナ
リ「安をけむ」惜志けめ「又志けま」ノハ形状

第二變形ノけ。ノ將來辭ノむ。めま。くニ係リタル者ニ
テ全ク此ケむけめ等トハ其辭類ヲ異ニスル者ナリ

作用ノ連用
ヲ兼ク
き 截斷

思はざりき
習はざりき

作用ノ連用
ヲ兼ク
志 連體

人に養れ志鳥
誰にか養れ志

作用ノ連用
ヲ兼ク
志か 截斷
已然

日こそ暮れ志か
夜こそ明け志か

此き。志。志かハ共ニ作用言ヲ兼レバ其活辭ニ過去ノ
時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク
に 連用

出でに志人
歸りにけり

此にハ必ズ他ノ過去辭ト連合スルヲ以テ作用言ヲ
兼レバ其活辭ニ大過去ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ヲ兼ク
に 截斷

思ひにき
慕ひにき

作用ノ連用
ヲ兼ク
に 連體

過ぎに志昔
我が過去に志

此にきに志ハ過去辭ノ相重リテ成レルナルニ因リ
其兼ル所ノ活辭ニ於テハ大過去ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ノ兼ク
ぬ 截断

齡シヨは老オ以ニぬ。
學ガクは成ナりぬ。

作用ノ連用
ノ兼ク
ぬる 連續

我ワぞ老オ以ニぬる。
學ガクびぬる業ノ

作用ノ連用
ノ兼ク
ぬれ 已然

潮シホこそ満ミちぬれ。
船フネこそ出デてぬれ。

此ぬぬるぬれハ共ニ其兼ル作用ノ活辞ニ過去ノ時

ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ノ兼ク
てき 截断

思オモひ初ハジめてき。
頼タノシみ初ハジめてき。

作用ノ連用
ノ兼ク
てき 連續

我ワが思オモひてき。
頼タノシみてき人ノ

此てきて志ハ共ニ其兼ル作用ノ活辞ニ大過去ノ時

ヲ見ス者トス

作用ノ連用
ノ兼ク
たら 將然

待マツちたらむ。
來キたらむまま。

此たらハ次ノたりたる等ト同ク「てお」ノ約レル
たノ良行ノ四段ニ働ケル辞ニテ其事物ノ然カ在テ
有ラン「フ」云フ辞トス故ニ「待ちたらむ」來たら
ま志ノ如キモ多ク想像過去ヲ示ス者ナリ

作用ノ連用
ヲ兼ク
たり
假連用
截斷

作用ノ連用
ヲ兼ク
たる
截斷
連體

作用ノ連用
ヲ兼ク
たれ
已然
命令

花開きたり
實結びたり

開きたる花
實ど結びたる

花こそ開きたれ
實を結びたれ

此たりたるたれハ共ニ「てあ」ノ約レルたノ良行
ノ四段ニ働ケル辞ニテ其兼ル作用ノ活辞ニ過去ノ
時ヲ見ス者トス而ノたれハ四段ノ第四音ニ係ルヲ
以テ又命令ヲ示ス

作用ノ連用
ヲ兼ク
つ
截斷

作用ノ連用
ヲ兼ク
つる
連體

作用ノ連用
ヲ兼ク
つれ
已然

春も過去つ
秋も暮れつ
折りつる紅葉
誰が挿えつる

折りつる紅葉
誰が挿えつる

我こそ聞きつれ
我こそ言ひつれ

此つづつるつれハ共ニ其兼ル作用ノ活辞ニ過去ノ時
ヲ見ス者トス

将来辞

将来辞ハ「教えへむ」
「習はまゑ」ノむまゑノ如ク作

此ま。ハむ。め。も。ト同ジク。麻行ノ将来ヲ云フ一個ノ辞
ニテ。三。ナ。ラ。む。め。も。元。真。集。同。ジ。ト。身。の。憂。き。事。も。傳。音。ニ。因。ル。欲。
去。ト。ア。リ。テ。其。餘。欲。ト。見。ト。類。ノ。如。ク。聞。か。お。欲。ト。言。め。
は。ま。欲。ト。去。レ。問。は。お。欲。ト。如。ク。聞。か。お。欲。ト。言。め。
も。同。シ。働。ケ。レ。バ。ナ。テ。リ。而。シ。テ。次。ノ。作。用。ノ。變。格。ハ。此。移。テ。成。形。
ナ。レ。者。其。兼。ル。所。ノ。作。用。ノ。活。辞。ニ。未。來。ノ。時。ヲ。見。ス。者
トス

作用ノ將然
ヲ兼ク
ま
載假連用
斷體

作用ノ將然
ヲ兼ク
ま
載假連用
斷體

荒れまよくも惜ま
見まくの欲まき

問はま
聞かま

此ま。く。ま。ま。ハ。上。ノ。ま。ノ。形。状。變。格。ニ。係。リ。テ。其。活。用。ヲ
為シタル辞ニテむ。ト同ジク其兼ル所ノ作用ノ活辞
ニ於テハ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然
ヲ兼ク
ま
載假連用
斷體

言はま
在らま

此ま。せ。ば。モ。上。ノ。ま。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。係。リ。為。ヨ。リ。ば。
一。種。ニ。係。レ。ル。辞。ニ。テ。係。リ。セ。更。ハ。ハ。マ。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。係。リ。為。ヨ。リ。ば。
接。辞。ニ。係。レ。ル。辞。ニ。テ。係。リ。セ。更。ハ。ハ。マ。ノ。作。用。變。格。ノ。為。ニ。係。リ。為。ヨ。リ。ば。
以。テ。言。は。ま。下。句。ハ。ハ。マ。ノ。言。は。ま。將。來。辞。カ。然。リ。テ。應。ズ。ル。意。
ニ。聞。エ。テ。必。ズ。下。句。ニ。マ。マ。等。ノ。將。來。辞。カ。然。リ。テ。應。ズ。ル。意。
者。ト。其。兼。ル。所。ノ。作。用。ノ。活。辞。ニ。未。來。ノ。時。ヲ。見。ス。者。ト
ス

作用連用
な 將然
な まで

花開きをば見む
實と結びなま

此な。ハ過去辞ノぬノ働ケル辞ニテ格ノハ本に作用變
 ぬれト活用ニぬル辞ニテ其ハ將然ノ格ニ非ザレバ過
 去辞中次ノなむなめ等ハ皆此なニむめ。辭將來等ノ結
 合セシニ成ル故ニ常ノむ。等ヨリモ一步深ク將來
 ニ進メルヲ猶過去ニ大過去アルガ如シ而ノ將來ト
 過去トハ固ヨリ相反スト雖モ其相距ルヲ愈遠キハ
 ハ却テ復タ遙ニ相通フ理アルヲ以テ音今此理ヲ開合
 音ト合音トハ其輕重固ヨリ相反テ却テ親ク相通
 音ト合音トハ其輕重固ヨリ相反テ却テ親ク相通

シガ如 過去辞ノけむト將來辞ノなむト花は開きけむ
 過去辞ノけむト將來辞ノなむト花は開きけむ
 髻トシテ相似タルガ如シ又此なハ否不辭ノぬでニ
 係ルヲアリ左ノ如シ

なぬ
 後撰集ニ「道知らずやみやは去刻
 逢ふ阪の閑のあなたは海といふ
 りな
 古今集「みかればかき我身をうらと
 知らぬばやかればかき我身をうらと
 るく

なぬまでハ活辭ノ時ヲ見スニハ非ザレバなノ否不
 辭ニ係ルハ僅ニ此二辭ノミナルヲ以テ姑ク此ニ収

作用ノ連用
兼ク
なむ 截斷
連體

去來宿りなむ
去來遊びなむ

此なむハ上ノなニむ。將來ノ添ヘル辞ニテ作用言ヲ
兼レバ其活辞ニむニ係ルヨリテ尚深キ未來ノ時ヲ
見ス者トス而ノ此なむニ紛ヒ易キ者アリ即チ命令
辞ノなむニテ「宿らなむ」「遊ばなむ」ノなむナリ
然レハ命令辞ノハ將然ヲ兼ル格ニテ將來辞ノハ連
用ヲ兼ル格ナレバ其同辞タルヲ以テ紛フルヲ勿レ
作用ノ連用
兼ク
なむ 已然

今日こそ出てなむ

明日こそ往きなむ

なま 假體
截斷
連體

風吹きなま
花散りなま

作用ノ連用
兼ク
なば 將然

學びなば
習ひなば

此なめなまま上ノなニめ。將來或ハなまノ添テ成
レル辞ニテ其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ於テハ單ニめ
ままニ係ルヨリモ尚深キ未來ノ時ヲ見ス者トス
作用ノ連用
兼ク
なば 將然
此なばハ上ノなニば。接辭ノ添テ成レル辞ニテ其兼
ル所ノ作用ノ活辞ニ於テハ單ニばニ係ルヨリモ尚

深キ未來ノ時ヲ見ス者トス

否不辭

否不辭ハ「見ぞ」「聞かぞ」「言はぞ」「語らぞ」「ぞぞ」ノ如ク作用ノ活辭ニ附テ其業作ノ否不ヲ見スニ用フル辭トス

作用ノ將然ヲ兼ク截斷

人も來ぞ。我も往ぞ。

此也。ハ稀ニ嘆辭ノかもニ係ルテアレバ萬葉集ニ「風連體ノ格ヲ有テル如シト雖モ普通ノ例トハ為ス可ラズ又一種接辭ノばニ係テモは萬葉集ニ「總ハト云

カ「アルノ以テ將然ノ格ヲモ有テリト觀ル者アレシ然レバニ係ル也。ハ此也。ニ非ズレテ「もあらノ約レル也。者ニテ其例ハ形一ニ變形ニ同シ者ナルト現在辭ノて「ばニ係テばト云フニ同ジ故ニ「あらば」ハ「あらむあらば」ノ意萬葉集中に「人ト在ラズ酒ニまみ酒壺に成リ」位まむば」ハ「住まむば」ノ意萬葉集中に「まもあらば」ノ意萬葉集今朝鳴き去雁に類ひて往きまのまもニ歸スルナリ

作用ノ將然ヲ兼ク截斷

拂はざらむ 外らざらむ

作用ノ將然
ヲ兼ク
ざり
連體

作用ノ將然
ヲ兼ク
ざり
連體

訪はざりき
呼ばざりき

讀まざる書
誰か讀ざり

此ざりざりざるハ「むあ」ノ約レルぞ。ノ良行ノ四

段ニ働ケル辞ニテ其兼ル作用ノ活辞ニ於テ業作ノ

然カアラザルヲ見ス者トス

作用ノ將然
ヲ兼ク
ざれ
命令

鶯こそ鳴ざれ
花は散らざれ

此ざれモ「むあ」ノ約レルぞ。ノ良行ノ四段ニ働ケ

ル辞ニテ其兼ル作用ノ活辞ニ於テ業作ノ然カアラ
ザルヲ見ス而ノざれハ四段ノ第四音ニ係ルヲ以テ
又命令ヲ示ス

作用ノ將然
ヲ兼ク
ざ
連體

我は欺かぞ
人は誘はぞ

作用ノ將然
ヲ兼ク
ぬ
連體

誰か知らぬ
馴れぬ作業

作用ノ將然
ヲ兼ク
ね
已然

花こそ開かぬ
色こそ見えぬ

作用ノ將然
ヲ兼ク
で
連用

曇らで零る

零らご曇る

此ぞぬぬでハ皆其兼ル作用ノ活辞ニ業作ノ然カアラザルヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
に連用

飽^アかにと
「飽カズ」
言へば得^にに
「言へば得」
言ノ意

此にハ上ノぞノ轉音ニテ現在辞ノてノ轉音ナルとニ係ル片ぞヲにニ轉ジテ用フル古言ノ一格ナリ故ニ其否不ヲ見スモ亦ぞニ同ジ

疑辞

疑辞ハ「誰れ」「如何」「人ヤ來る」「我ヤ往く」ノ如ク

疑訝ヲ示スニ用フル辞トス而シテ此辞ハ上ヲ兼ケ下ニ接グベキ格ヲ有ツ者ト虚體言ノ如ク其活用無キ者トノ二類アリ今先ツ活用無キ辞類ヲ擧グ

- いか
- いづら
- いづれ
- いか
- いづ
- たれ
- たが
- なに
- いづれ
- いづ

上下ニ關係ノ格ヲ有ツ疑辞ハ其數十一個ニテ左ニ示ス如シ

實體虚體代名ト作用ノ連用假體已然トヲ兼ク
か連用

實體虚體代名及ニ形状ノ假體ト作用形状ノ連體トヲ兼ク
か(截断)

今^レか開^カくらむ
今^レか吹^クくらむ

零^ラるは時^ト雨^ニか

實體虚體代名ト作用ノ
連用假體已然ト兼ク

かも 連用
かも 截断
實體虚體代名及ニ形状ノ假體
ト作用形状ノ連體ト兼ク

照るは紅葉か
獨りかも寐む
雪かも零れる
人見けむかも
零るは花かも

かハ本ト一個ノ辞ナレモ兼ル辞ノ異ナルニ因リ其
格ノ連用ト截断トニ變ズルヲ以テ各別ニ之ヲ擧ゲ
かもや。やも。如キモ皆此例ニ準テ而シテ連用ノかハ
嘆辞ノやニ係テかやト云フアルハ小大君集ニま
鳥ト列カ見れ玉葉集假體ヲ兼タルヲ以テナリ
断

イカモ假體ノ下ニ其格故ヲ記サハト云フ者ハ連用截断
二格ノ差別ヲ示スリ
主ト為シテナリ

各種ノ體言ト作用形状ノ連用
連體及ニ作用ノ已然ト兼ク

や 截断
作用形状ノ
截断ヲ兼ク

各種ノ體言ト作用形状ノ連用
連體及ニ作用ノ已然ト兼ク

やも 截断
作用形状ノ
截断ヲ兼ク

去^コ年^ツとや言はむ
今^コ年^ツとや言はむ
見^ミゆ^ユや見^ミぬ^ヌや
有^アり^リや無^ム去^クや
花^ハとや見^ミむ
雪^{ユキ}とや見^ミむ
嬉^{ウレシ}ま^マや
悲^{ウレシ}ま^マや

此や。モ假體ヲ兼タル一かニ同ジモ連用タリやハ截断ヲ
ニ係ルアリ千五百番歌合ニ谷隠れ木の葉が下
の理れ水こほれはやむ音ラジキニ似タリト如シ然
レバ更ニ截断ノヤハラハハ掲グマズ是レ亦ヤノリト格ナリ却
テ截断ノヤハラハハ掲グマズ是レ亦ヤノリト格ナリ却

實體虚體代名作用假體各
作用形状連體ト兼ク

遙けきやなぞ
寂寥きやなぞ

各種體言作用形状ノ
截断連體ト兼ク

なご 答むらむ
なご 思ひけむ

いかニ 連用
假體

いかニ 言はむ
いかニ 為ま志

此などヲ體言ノ尾ニ附レバ複數ヲ見スモ疑辭ニ

テ明ニ其一物一事ヲ指示セザルヲ以テナリ又いか
にハ上ノいかニ指示辭ノに添ヒタル者ナリ

反 辭

反辭ハ「來べき春かは」香やは隠るる」ノ如ク動作
ノ意ヲ其裏ニ反スニ用フ而メ此辭ハ本ト疑辭ト同辭
タリト雖モ疑辭ハ其用法ニ因テ作業ニ反動ヲ見ス
アルヲ以テ更ニ茲ニ再出シテ反辭ノ名ヲ命ズ

か 連用

誰か 願はぬ
誰か 仰がぬ
誰か 願はぬ
誰か 願はぬ

か 截断

戀をあらぬか
戀をあらぬか

かも 連用

かも 截断

かは 連用

かは 截断

か 連用

慕^シむ^ハあら^ハめ^カ慕^シハ^ニ意^有

誰^カかも^ハ仰^グが^ハ奴^ノ誰^カハ^ニ意^有

誰^カかも^ハ願^フは^ハ奴^ノ誰^カハ^ニ意^有

戀^シざ^ラめ^カも^ハ戀^シハ^ニ意^有

慕^シざ^ラめ^カも^ハ慕^シハ^ニ意^有

誰^カかは^ハ願^フは^ハ奴^ノ誰^カハ^ニ意^有

誰^カかは^ハ仰^グが^ハ奴^ノ誰^カハ^ニ意^有

戀^シざ^ラめ^カは^ハ戀^シハ^ニ意^有

慕^シざ^ラめ^カは^ハ慕^シハ^ニ意^有

惜^シく^ハあ^ラぬ^ハ惜^シク^ハ意^有

花^ハと見^エま^スや^ハ花^ハト^ハ意^有

月^ハと見^エめ^カや^ハ月^ハト^ハ意^有

思^ヒひ^ハか^ケ志^ス思^ヒハ^ニ意^有

惜^シく^ハあ^ラぬ^ハ惜^シク^ハ意^有

花^ハと見^エま^スや^ハ花^ハト^ハ意^有

月^ハと見^エめ^カや^ハ月^ハト^ハ意^有

思^ヒひ^ハか^ケ志^ス思^ヒハ^ニ意^有

惜^シく^ハあ^ラぬ^ハ惜^シク^ハ意^有

花^ハと見^エま^スや^ハ花^ハト^ハ意^有

三

や 截断

やも 連用

やも 截断

やは 連用

やは 截断

月とは見ゆやは「月トハ見
ズノハ見

兩 辭

兩辭ハ「友と讀む」友も習ふ「行きながら語る」「語
りつゝ行く」ノともながらつゝノ如ク二人ノ作業ヲ
一辭ニ示シ或ハ二個ノ作業ヲ一辭ニ見スニ用フル辭
トス

各種ノ體言ノ作用形状
ノ連用連體トヲ兼ク
も 連用
假體

作用ノ連用
ヲ兼ク
も 連用
假體

彼も學べり
我も學ばむ
見つゝ我來ぬ
聞つゝぞ來ま



此つゝハ過去辭ノつゝノ二個重リテ成レル辭ノ過去辭
活用ト為ナリ故ニ「見つゝ來ぬ」ハ「見つゝ見つ
來ぬ」ノ意ナリ

各種ノ體言ノ作用形状
ノ連用連體トヲ兼ク
と 連用
假體

樂とと思はむ
燃ると減ると

此とニ「とも」ト云フ意ノとアリ堀川院後百首ニ
「画にかくと筆も及ばず」モ画ニカクハ意蜻蛉日記
ニ「穗に出でたりとかひやなからむ」穗ニ出デタ
ノカ意シ而ノ此トハ截断ヲ兼ル格ナレバ彼此相對ス
ル與字ノ意ニ用フル片ハ連體ヲ兼ク拾遺集ニ「日
物

遺集ニ「疾く明く入ると遅く暮る」との山後拾
 上以「又稀ニハ彼此相對セザルニモ用フルモア
 月哉」又「日本紀ニ燃了率流止」一般ノ例トハ為ヌ可
 レ「忠峯集ニ燃了率流止」吹きと吹く「零りと
 ラズ又強ク云フ片ニ用フル「吹きと吹く」零りと
 零る「ノ如キトハ「吹き」零り」ノ連用ヲ兼タル
 ニハ非ズシテ其假體ヲ兼タル者ナリ

作用截断
 フ兼ク
 とも
 假體

暮るとも往かむ
 明くとも去まむ

此ともハ截断ヲ兼ル格ナルニ體言ヲ兼タルニ似タ
 ル者アリ
日本紀ニ「馬豆麻樹ハ神トモ嬉れまじ然レ
 源氏玉葛卷ニ「馬豆麻樹ハ神トモ嬉れまじ」

凡其ともハトニ嘆辞ノも添レルニテ此雖字ノ意
 合ノともトハ異ナレバ同辞タルヲ以テ紛フルト勿レ

作用連體
 フ兼ク
 とも
 假體

風吹くなべに
 聲聞くなべに

各種體言ト作用形状
 連用連體ト兼ク
 だに
 假體

曇りだに為よ
 勉めだに為よ

各種體言ト作用形状
 連用連體ト兼ク
 さへ
 假體

夜さへ愁は屯
 晝さへ眠ぶる

各種體言ト作用形状
 連用連體ト兼ク
 たら
 假體

女子をら勉たり
 童子をら為志得

用フル辞トス

作用ノ截断
ヲ兼ク
らむ
連體

作用ノ截断
ヲ兼ク
らめ
已然

作用ノ截断
ヲ兼ク
らま
連體

作用ノ截断
ヲ兼ク
めり
連用

作用ノ截断
ヲ兼ク
めり
連體

神ぞ知るらむ
紅葉為ぬらむ

今こそ零るらめ
今こそ晴るらめ

冬来たるらま
雪ぞ零るらま

花は開くめり
月も照るめり

風ぞ吹くめり

露ぞ置くめり

汝こそ往くめれ
彼こそ去ぬめれ

此のりめりめれ「みえ」ノ約レルめ。ノ良行ノ四
段ニ働ケル者ナリト云フ説アリ若シ此説ノ如クナ
ラバめらトモ云フベキ辞ノアルベキヲ活語指南ニ
ト舉タリ辞古來其辞ナキハ「みえ」ノ約ナザル明
徴ナル可シ然レバ此めりハ將來辞ノめノ良行ノリ
る。れニ係レルナラン而メ良行ノらニ係ラザル者ハ
ら。ハ將然ノ格ニテめ。モ亦將來辞タレバ二個ノ將來

作用ノ截断
ヲ兼ク
めれ
已然

辞ヲ相重ヌベキ理ナキニ因ルナル可シ猶此辞ハ大
 詳論ス又ぬれヲ自己ノ作業ニ附タルモアレ兼ニ
一足引の山のかげは去ふみのほ猶他ノ作業ノ及達
り今日こそ峰の花は折るめれし
 スルニ因テ然ル者ナレバ他ヲ想像スル辞義ニ於テ
 異ナルヲ無シ

作用、將然
ヲ兼ク
至志、截斷

敢へ至志

作用、將然
ヲ兼ク
至志、連體

得至志

此二辞ハ續日本紀ノ詔詞ニ見エテニ續日本紀ノ詔詞

字岐又「散末」至志ハ將然ノ至志ノ否不辭ノ志
 之時此為「」
 係レル者ニテ至志至志ハ至志ノ形狀變格ニ働
 ケル者トリ至志至志ハ至志ノ
 至志至志ト至志至志ノ如キハ此辭ノ約リテ成レル者
 ナリ然レド其兼ル所ノ格ノ變ルハ至志至志ハ將然ヲ
 兼已ニ一個ノ辭ト成レル上ハ縱へ約タル辭ナル
 至其格ノ變ル可キハ自然ノ理ニテ恠ム可キニハア
 ラザルナリ譬ノ義ニシテ其タビ兼ル所ノ格ヨリ清
濁ノ變ル如シ生

作用、截斷
至志、截斷

為至得至志

堪へ得まご

作用ノ截断
ヲ兼ク
まご
連用

勉むまごく見ゆ
勵むまごく思ふ

作用ノ截断
ヲ兼ク
まご
連用

讀み得まごきぞ
書き得まごきぞ

此三辞ハ上ノまごまごまごまごノ約レル辞ニテまご

まごまごまごト同ク作用言ヲ兼レバ其活辞ニ皆他ノ

事物ヲ想像セル不切實ナル作用ヲ見ス者トス

決定辞

決定辞ハ「褒むべき事」感むべき志なり「如ク

活辞ニ見ル、時ハ未來ニナリ或ハ想像ヲ呼ガニ似テ

決定ノ義ニ乏シト雖モ然レモ其未來ニナリ想像ニ似

ル所ノ動作モ遂ニ然ラザル能ハザル事理ナルハ作

業ニ先テ已ニ疾ク決定セルヲ以テ又「往くべき」聽

くべき」ノ如ク命令ヲモ示シ得ル者ナリ故ニ辞義ヲ

説キ來レバ將來辞ニモ収ム可ラズ想像辞ニモ入ル可

ラザルヲ以テ姑ク此名ヲ命ジテ一辞ニ置ク

作用ノ截断
ヲ兼ク
べら
假體

聞きぬべらなり
知りぬべらなり

作用ノ截断
ヲ兼ク
べら
連用

堪ふべく思ふ

忍ぶべく見ゆ

作用ノ截断

ベ志 截断

告げば悦ぶべ志
語らば驚くべ志

作用ノ截断

べき 連體

今ぞ見るべき
今ぞ聞くべき

作用ノ截断

べみ 連用

開くべみ
散るべみ

此辞ハベト云フ原語ノ形状變格ニ働ケル者ニテトベ

辞類ハ一皆其原語アルヲ見以テ推スヤハ形状ニ活用スル
ナザルべらノらハ助辞ノラニテ假體ノ格ナレバ現在

辞ニ係ルナリ又べみハ形状ヨリ麻行四段ニ移レル
みニテ「寒み」「薄み」係ニ詳ナ變化ノノみニ同ジ

比准辞

比准辞ハ「彼は花のごとま」「此は雪のごとま」ノ如ク此事物ヲ彼事物ニ準ル業作ヲ示スニ用フル辞トス

作用ノ形状ノ連體ヲ兼ク

ごと 假體

春のごと長閑ま
秋のごと寂寥ま

作用ノ形状ノ連體ヲ兼ク

ごとく 連用

珠のごとく瑩く
夢のごとく覺ゆ

作用ノ形状ノ連體ヲ兼ク

ごとま 截断

月光は晝のごとま

作用形状ノ
連體ヲ表ク
ごとき
連體

落葉は雨のごとき
雪のごとき霜
烟のごとき霧

助 辞

助辞ハ「紀の関守い」「花を去見れば」ノい。去ノ如ク
其句ノ助ニ用フルノミニテ意義ナキ辞トス然レモ次
ノ句頭接辞ニ収タル發語ニ類セル者トハ異ニシテ其
上下ノ兼接ニ於ルハ全ク他ノ接辞ニ同ジ

實體虚體ハ各作用ノ
假體連用連體ト表ク
い
連用
連體

家なる妹
花待つ間

實體虚體代名ト形
狀ノ連體ト表ク
ら
假體
連體

夜の間
悲きる哉
子をら
麻草ら

此三辞ハ上古ノ語法ニ在ル者ニシテ中古以來用フ
ルヲナシ而シテ此らハ指示辞ノなもヲ兼テなも
云ヘルヲアリ萬葉集ニ「思
ほまなもろ」

實體虚體代名ト作用ノ假體連用
連體ト形状ノ連用ト表ク
去
連用

寒く去在れば
人を去見れば

此去ハ指示辞ノのニ係ルヲアレバ萬葉集ニ「誰
は優

「思へり去く。去」ノ去ハ助辞ナリ。萬葉集ニ「吾妹
去影に見ゆ。除テモ在リテ此ハ間ユナルヲ助辞ノ去ナリ
故ニ去ク。去」ヲ除テモ在リテ此ハ間ユナルヲ助辞ノ去ナリ
去クヲ助辞ト為シテ「思へり去く」ト云フ。然ルモ亦
ハ其ハ過去ノ時ヲ見ス。辞タルヲ以テ「タリ然ルモ亦
子ガ思へり」ト云フ。面影ニ見ユルト云フ意ハ落テ
今ハ已ニ思ハル義トナレバ萬葉ノ歌ノ意トハ大ニ
異ナルヲ味知ナレシ味。天つ神。國つ社。

つ 連體

此ハ指示辞ノのニ通フ辞ナレバ其意義ナキヲ以
テ姑ク助辞ニ収ム。近世ノ語格書ノ中ニ此助辞ハ「花を去。見れば」

ノ去「雪去もを零る」ノ去も「見つゝと。行む」
ノを。三辞ニ作業ヲ強ク云フ義アリト説ル者
リ抑助辞トハ辞句ノ助ニ用ヒテ之ヲ除クモ其義
ヲ失フ。無キ是レ助辞ノ通例ニシテ古書ニ載ル
所皆然ラザルナシ故ニ「花を去。見れば」雪去も
を零る」ノ如キ去もヲ除クモ其意義ヲ害スル
トナシ然ニ兩辞ノトノ作用ノ假體ヲ兼テ「零り
と。零る」行きと。行く」ノトノ如キハ其作業ヲ強
ク云フニ用フル辞ナルヲ以テ之ヲ除クト能ハズ
是レ其助辞ト助辞ニ非ザルトノ明徴ナリ

句頭接辞

句頭接辞ハ兼ル辞ナクシテ直ニ句頭ニ見ル、辞類ノ
 総稱ナリ而メ此辞ニ「ハ。往。く」「た。忘。る」「ハ。た。り。如
 ク發語ニ用ヒテ意義ナキ者ト「ま。な。は。ら。讀。む」「ま。こ
 ぶ。る。寒。志」ノま。な。は。ら。ま。こ。ぶ。るノ如ク體言ノ形ヲ成
 セル者トノ二種アリ其發語ニ用フル者ハ左ニ出スガ
 如シト雖モ體言ノ形ヲ成セル者ハ辞數頗ル夥多キレ
 バ今其一ニヲ舉テ例ヲ示ス

體言ノ形ヲ成セル者此辭ハ格ハ連用假體
連體ハ格然ハ連用各其

差辭ニ因テ少

み おほみ まはら まこぶる まからく

此み。おほみハ句頭ニ置テ其物或ハ其事ヲ崇敬スル
 ニ用フルみハ常ニ御ノ字ニ用テハ みハ御ノ字ニ用テハ
 みハ大御ノ義ナルヲ中古以來ハ音便ニ因テ常ニおほ
 ほんト呼ブノガノ條ニ説ト呼リ例ハ音便
 發語ニ用フル者

發語ニ用フル者ハ其數九個ニシテ其中ハか。た。ま。の
 四辞ハ多クハ古言ニ在ル者トス但古ノ書ニモ或ハ用
 ルベシ事ア

い 連用 ハ。向。ふ

た 連用

ま 連用

み 連用

さ 連用

か 連用

い 行

た 忘る

た 速み

ま 幸く

ま 夜中

み 雪

み 空

さ 夜更方

さ 夜更

か 易と

一種接辞

一種接辞ハ上ニ舉ル所ノ各種ノ接辞中ニ入レ難キ辞類ニ命ゼシ名ナリ即チ「塔がぬ」「后がぬ」「田舎より

そ 連用

と 連用

け 連用

か 黒き髪

そ 馴子

そ 馴松

と 田

と 簾

け 辨る

け 怕る

京都から

作用將然已然指示
辭ノトトヲ兼ク
假體用

習はば成む
呼ばば答ふ

此ばハ將然已然トヲ兼ル格ナルニ指シハ辭實ハ清音
兼クハベキレハ姑ク舊説ニ因テ表ニ詳ナリモ嘆辭ノカ
ヲ兼テカバト云フハ後撰集ニ山盛リモ知ラズ
ば返カリ古今集ニ中ぞ遙けかり見まかノ下ニ然
然れト云フ辭ノアルベキヲ省ケルナリト然れ
過ルハ辭トノ兼差異アルニ將來辭ト例ヘバ散リ
カ然らば兼將來ル辭ノアルニ將來辭ト例ヘバ散リ
然れト云フ辭ノアルニ將來辭ト例ヘバ散リ

ルカヲ兼リタノ如ニ尚此例ハカヲ兩辭ノども係テ
カドカドモト云フニ同ジハ古今集ニ聞まかどき道
日とは思はざり袖と問はば答へむトアカカカ
春風は濡れに去袖と問はば答へむトアカカカ
レバト然れト云フ省ケル者ナリ因云此ば否不辭
ねヲ兼タルねばト云フ辭ハぬにノ意ニ聞ユルハ常
ナレハ新古今集ニ原に沫雪どふの檜原も未ダ曇らぬ
ハト云ハ曇ナリぬばト通フノミナラズばノ
已然ヲ兼タル者ト指示辭ノ比ノ連體ヲ兼タル者ト
ハ多クハ相通フナリ古集ニ鳥夜深く鳴てい物思ひ居
貫之集ニ此唐衣新まは立ハつ年交れば人は意斯く又
貫之集ニ此唐衣新まは立ハつ年交れば人は意斯く又

舊年より来るにけれし意ニ開ル類ナリハ
此辞ハ自於因ノ意ニ云フ三箇ノ別アリ自於ノ意ニ云フ各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼テ即チ連用假體格於ハ連用格ナリ因ノ指示辞ハハミヲ兼テ連用格ナリ

より 連用假體

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク而體言ヲ兼ルハ自ノ意連體ヲ兼ルハ因ノ意ナリ

から 連用假體

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク

ゆゑ 連用假體

實體虚體ト作用ノ截斷連體トヲ兼ク

かぬ 假體

人も見るがに
語り継ぐがわ
是ゆゑに惚ぶ
子ゆゑに思ふ
習ふからに為ま得
我心から為ま作業
雪によりて寒ま
白晝よりも明ま
田舎より來たり

實體虚體ト作用ノ截斷連體トヲ兼ク

かに 連用假體

作用形状ノ截斷ヲ兼ク

かま 截斷

作用ノ連用ト形状ノ單辭ハ原語複辭ハ去ヲ兼ク

け 假體

人も見るがに
歸り來るがに
學ぶかま
愛無まかま
心有りげ
物思ひげ

此げハ形状單辭ニ入レタルゲナレト作用ノ連用ヲ
モ兼ルヲ以テ更ニ此辞中ニ収ムル此作用ノ連用ハ兼
ニ因リハ物思ひがほ等ヲ以テ或ハ作用ヲ兼ケ通音
ハ形状ナリ

崇敬辞

崇敬辞ハ「讀みたまふ」「習ひたまふ」「教へまゐらむ」
 「聞江まゐらむ」ノたまふまゐらむノ如ク作用ノ活
 辞ニ附テ其業作ニ敬意ヲ加フル辞トス而シテ他ノ業作
 ニ附ル者ト已ノ業作ニ附ル者ト自他ノ業作ニ兼涉ス
 ル者トノ三種アリ本ト此辞ハ作用ノ活辞ヨリ來テ普
 通ノ接辞トハ自ラ異ナリト雖モ其崇敬ニ用ヒントス
 ル片ハ他ノ活辞ニ属スルニ非ザレバ見ル、一能ハザ
 ル辞類ニ係ルヲ以テ今此名ヲ命ジテ接辞ノ中ニ收ム

作用ノ連用
 兼ク
 活用
 四段
 活辞

御坐たまふ

立出たまふ

此まをハ作用ノ四段言ニテ「あり」「とる」ノ義ナ
 ルヲ以テ他ノ為ス業作ニ附テ呼ブ片ハ其業作ヲ崇
 敬スル意ヲ見ス者トス此辞ハ「あり」「とる」ノ義ナ
 ズタリト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ル片ハ「あり」「とる」ノ義ナ
 ズ故此まをヲ重テ尾ヲ兼ル片ハ「あり」「とる」ノ義ナ
 居リハ「あり」ト云フ業作ヲ敬シテ義呼ブ下ノまをハ其
 作用ノ連用
 兼ク
 活用
 四段
 活辞

此たまふモまをト同ジク作用ノ四段言ニテ物ヲ賜
 フ義ノ「たまふ」ナルヲ以テ他ノ為ス業作ニ附テ

學びたまふ
 習ひたまふ

呼ブ片ハ其業作ヲ崇敬スル意ヲ見ス者トス此物ヲ賜
ヲ義ニ用ハフル片ハ普通ノ活辭ニ變ズルト雖モ他ノ同ジ尾

作用ノ連用
マツル
活四段

仕へまつる
抱きまつる

此まつるモ作用ノ四段言ニテ物ヲ獻ル義ノ「まつ

る」ナルヲ以テ自他ノ作業ニ附テ呼ブ片ハ其作業

ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ見ス者トス此物ヲ獻

尾ヲ義ニ用ハフル片ハ一種ノ普通ノ活辭ニ變ズルト雖モ他ノ同ジ

作用ノ連用
たてまつる
活四段

傳きたてまつる
伴ひたてまつる

此たてまつるモまつると同ジク作用ノ四段言ニテ

物ヲ獻ル義ノ「たてまつる」ナルヲ自他ノ作業ニ

附テ呼ブ片ハ其業作ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意

ヲ見ス者トス此活辭ニ變ズルト雖モ他ノ同ジ

ハ一種ノ崇敬辭ニ變ズルト雖モ他ノ同ジ

作用ノ連用
送る
活四段

送りまゐらむ
迎へまゐらむ

此まゐらむハ作用ノ下二段言ニテ物ヲ進ラスル義

ノ「まゐらむ」ナルヲ以テ自他ノ作業ニ附テ呼ブ

片ハ其作業ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ見ス者

神皇正統記

トス 此辞ヲモ物ヲ進モ他ノ辞尾ヲ兼ルハ一種ノ崇敬
辞ニ變ズル
刊ニ同ジ

作用ノ連用
ヲ兼ク
はべる
四段
活辞

抱き
負ひ
はべる

此はべるハ作用ノ四段言ニテ侍候ノ義ノ侍候ノ義
在リ居リ「はべる」ナルヲ以テ自己ノ業作ニ附
テ呼ブキハ其業作ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ
見ス者トス 此辞ヲ侍候モ他ノ辞尾ヲ兼ルハ普通ノ
ノ崇敬辞ニ變ジズ
作細ノ連用
たまふ
下段
活辞

我が思ひたまふ

我が聞きたまふ

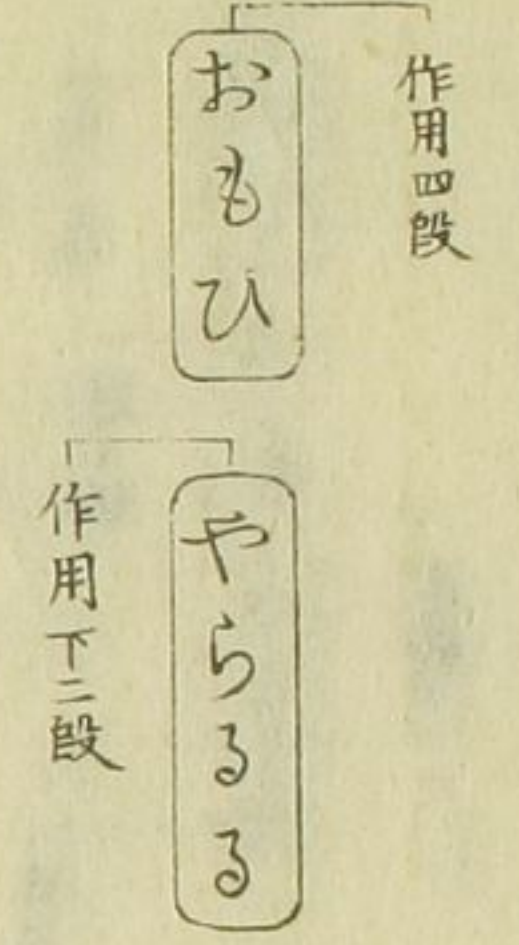
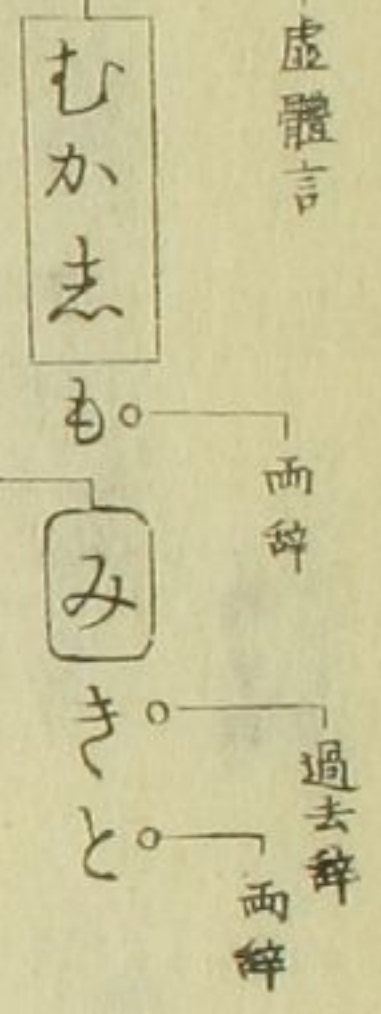
此たまふハ作用ノ下二段言ニテ自己ノ作業ニ附テ
呼ブキハ其作業ヲ受ル者ニ對シテ崇敬ノ意ヲ見ス
者トス而ノ此辞ハ「見る」「聞く」「思ふ」ノ三個ノ
動作ニ附テ呼ブテ例トス

三品辞ノ格ト性質トハ上條ニ於テ已ニ論シ畢レリト雖
モ其相綴合シ相連續シテ文章ヲ成ス法ヲ熟知スルニ非
ザレバ我心意中ニ存在スル所ノ論說技術願望好欲等凡
百ノ思念ヲ記シテ之ヲ他人ニ告知スルヲ能ハズ夫レ文
章ハ今古雅俗ノ體アリト雖干之ヲ要スルニ一ニ我思念

刀皇正統記

卷六

五



もハ體言ヲ兼テみト云
フ作用言ニ續キハ切
ト云フ連用言ヲ兼テ切
レハハきト云フ截断言
ヲ兼テ五句ノおもひト
云フ作用言ニ續ケリト

おもひハ連用ノ格ニテ
やらるるト云フ作用言
ケリ續

此歌ノ互乎波ハ第四句ハもノ係辭ヲきニテ結ビ
「むかまもみきと」係辭ノ第三句ハもノ係辭ヲ第
五句ノるるニテ結ベリ「つきかげどむかまもみき
とおもひやらるる」係辭ノ
思遣

互乎波ノ調
上句ニ属タル係辭ヲ兼テ下句ニ於テ結
ブ法ナリ例へバ「花を開くなる」月こそ照るなれ
如クぞト云フ係辭アレバ必ズるト云フ結辭ヲ用ヒ
ト云フ係辭アレバ必ズレト云フ結辭ヲ用フル類トス而
ノ結辭ニ用フル辞ハ接辭ノニ非ズ作用言アリ形状言
アリ皆上ノ係辭ニ從テ其辞尾ヲ變換ス乃チ「月は出づ
」月ぞ出づる」辞出ナレハ作用ノ下ニ轉ジ言ニテハト云
シノ係辭ニナレハ第三ノ轉「花は美しくよ」「花ぞ美
美しくよハ形状ノ復ビ辞トニ云フハ係辭トレバ第四ノ
轉ジト云ハ形状ノ復ビ辞トニ云フハ係辭トレバ第四ノ

結ブ如シテノ如シ総テ互ル乎波ノ調ハ續クヲ切テ各其一
 個ノ事物ニ呼ビ做ス法タルヲ以テ一個ノ作業或ハ一個
 形容ヲ各其一辞ニテ呼ブキハ必ズ其辞ノ截断ノ格ヲ
 用ヒザル可ラス乃チ「作業ノ出ヅル」ヲ云ヘバ「いづ
 形容ノ美クシキ」ヲ云ヘバ「うつくま」ノ類ナリ然
 前ニハ「月ハ出」ニテ「花ハ美」ニテ「得」ニテ「以テ
 辞尾ヲ變換ヲ待」スモ「結」ト云ヒテ「同」ナリ故ニ
 省テ「月出」ト云ヒテ「花美」ト云ヒテ「同」ナリ故ニ
 ルヲ以テ知然ニ「いづ」うつくまト書スシテ「いづ
 體言ニ連續スルヲ以テ互ル乎波ヲ誤ル者トス業一個一辞作
 記ス片ハ其格ハ連續ナレバ下句ノ

ニテ示ス如ク下句ノ體言ニ連續スルヲ以テ其辞ハ入
 隠ヲ云フ辞ニタルズルヲ形ニテ連續スルヲ以テ其辞ハ入
 上句ニ屬キテ係辞トナル所ノ接辞ハはものぞや何こそ
 ノ七辞ニテ此中ハ一格ヲ見ス者ナリ又ハ直ニ體言ヲ兼
 五辞ハ第三格ノ三格ニ屬スルハニ屬シ或ハ第四格ヲ見
 ス第ニ格ノ三格ニ屬スルハニ屬シ或ハ第四格ヲ見
 第ニ格ノ三格ニ屬スルハニ屬シ或ハ第四格ヲ見
 乎波ト云フ徒ハものぞや何こそノ八個ノ係辞ヲ結グニ
 ハ種々ノ辞アレバ其輕重ニ因テ之ヲ三段ニ分ツ徒ハ
 ノ三辞ノ結ビテ第一段トシのぞや何ノ四辞ノ結ビテ第
 二段トシこそノ結ビテ第三段トス第一段ノ係辞徒ハ
 切學文典 卷下 五十四

之ヲ結ブニ截断格状言用言接辞形ノ辞ヲ用ヒ第二段ノ係辞ハの
何ヤハ之ヲ結ブニ連體格状言用言接辞形ノ辞ヲ用ヒ第三段ノ係
辞こそハ之ヲ結ブニ已然格状言用言接辞形ノ辞ヲ用フ而シテ第
一段ハ輕ク第二段ハ重ク第三段ハ最モ重ケレバ係辞ノ
相重ナレル者ハ其重ニ從テ結ブ然レモ係辞ナレバ其相重
ナレハ各別ニ今先ノ係辞トナリテ見ル、所ノ接辞ハ
何等ノ種類ヨリ出ヅルカヲ左ニ示ス

- 徒** はものぞや何こそノ無キ者ヲ云フ
- は** 指示辞ノハニテ連用格ヲ有ツ
- も** 兩辞ノもニテ連用格ヲ有ツ

の 指示辞ノのニテがト云フ連用格ヲ有ツ

ぞ 指示辞ノぞニテ連用格ヲ有ツ

や 疑辞ノ連用格ヲ有ツや連用格ヲ有

何 疑辞ノなにニテいかいついづれいづら

こそ 指示辞ノこそニテ連用格ヲ有ツ

此八個ノ係辞ノ上句ニ在ルキハ其結ニ用ヒタル辞ハ総
テ切ル、ヲ以テ下句ニ連續スル、能ハズ故ニ再ビ之ヲ
連續セント欲スルニハ必ず切ル、辞ヲ兼ル所ノ接辞ヲ
用ヒテ然リ後ニ下句ノ詞ヲ綴ル可シ左ニ舉ル所ノ例ハ

| | | | | |
|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|------------------------------|---------------------------|
| 接辞 辞 想象 | 接辞 辞 過去 | 接辞 辞 過去 | 接辞 辞 現在 | 作用 辞 第三變 四段長 行再轉 |
| めり 断截 | けり 断截 | たり 断截 | なり 断截 | り 断截 |
| 吹くゆり 零るゆり 言ふゆり 聞くゆり | 開きけり 散りけり 入りけり 出けり | 明けたり 暮れたり 見たり 聞たり | 往たり 來たり 照るなり 住むなり | 有り 居り |
| める 體連 | ける 體連 | たる 體連 | なる 體連 | る 體連 |
| ふくめる ふるめる いふめる きくめる | さきける ちりける いりける いでける | あけたる くれたる みたる ききたる | ゆくまる くるまる てるまる とむまる | あ る る |
| めれ 然已 | けれ 然已 | たれ 然已 | なれ 然已 | れ 然已 |
| ふくめれ ふるめれ いふめれ きくめれ | さきけれ ちりけれ いりけれ いでけれ | あけたれ くれたれ みたれ ききたれ | ゆくなれ くるなれ てるなれ とむなれ | あ れ れ |

| | | | | |
|------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------|-------------------|
| 接辞 辞 否不 | 接辞 辞 否不 | 接辞 辞 過去 | 形状 複 單 辭 辭 | 段一第 |
| 志 断截 | む 断截 | き 断截 | 志 断截 | 徒はも 辞係 |
| 失解減焔 せむけま せむけま せむけま | 失解減然 せむけむ せむけむ せむけむ | 有りき 無き 知りき | 深か志 浅さ志 樂の志 久さ志 | |
| ぬ 體連 | 志 體連 | き 體連 | | 段二第 のぞや何 辞係 |
| うせぬ とけぬ きぬ もぬ | あり志 なかり志 さき志 去りて志 | ふかき あさき たのまき ひまき | | |
| ぬ 然已 | 志か 然已 | けれ 然已 | | 段三第 こそ 辞係 |
| うせぬ とけぬ きぬ もぬ | あり志か なかり志か さき志か 去りて志か | ふかけれ あさけれ たのまけれ ひまけれ | | |

| | | | | |
|--------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 作用 活四 辭段 | 作用 下上 二二 段段 | 作用 下上 二二 段段 | 作用 下上 二二 段段 | 作用 下上 二二 段段 |
| く | る | ゆ | む | ふ |
| 断截 行飽開鳴 くくくく | 断截 忘枯徳奮 るるるる | 断截 絶消悔老 ゆゆゆゆ | 断截 漆譽恨試 むむむむ | 断截 傳加忍張 ふふふふ |
| 作用 活四 辭段 | | | | |
| く | る | ゆ | む | ふ |
| 體連 ゆあきな くくくく | 體連 わかこふ るるるる | 體連 たきくお ゆゆゆゆ | 體連 そほうこ むむむむ | 體連 つくまふ たはふふ |
| け | れ | ゆれ | むれ | ふれ |
| 然已 ゆあきな けけけけ | 然已 わかこふ るるるる | 然已 たきくお ゆゆゆゆ | 然已 そほうこ むむむむ | 然已 つくまふ たはふふ |

| | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|
| 接作用 辭過下 去二二 段段 | 接作用 辭過下上 去二二 段段 | 作用 第下上 二二 段段 | 作用 第下上 二二 段段 | 作用 活下 二二 段段 |
| ぬ | つ | を | く | う |
| 断截 吹零重兼 きりぬぬ | 断截 見捨取落 つづつ | 断截 瘦載海根 ををを | 断截 拵受來起 くくく | 断截 蹴居飢植 うううう |
| ぬ | つ | を | く | う |
| 體連 ふきぬ かかぬ | 體連 みまはお つづつ | 體連 やのまこ ををを | 體連 かうくお くくく | 體連 くまうう うううう |
| ぬれ | つれ | をれ | くれ | うれ |
| 然已 ふきぬ かかぬ | 然已 みまはお つづつ | 然已 やのまこ ををを | 然已 かうくお くくく | 然已 くまうう うううう |

此つ、三結ア
ハ餘意ヲ合メテ
ノリ故ニ其終
連用ニテ其結
辭ニ非バ

| | | | | |
|------------------------------|--|-----------------------------|-----------------------------|--------------------|
| 接辭 辭 希求 | 接辭 兩辭 | 接辭 辭 將來 | 接辭 辭 想像 | 作用 下上四 段 段 段 |
| ばや 斷截 | つ 用連 | ま 斷截 | ら 斷截 | る 斷截 |
| 問はばや 言はばや 聞かばや 往かばや | 見來つ 鳴きつ 開きつ | 問はま 言はま 開かま 打たま | 書らま 問らま 知らま 呼らま | 蹴見釣散 るるる |
| | 接辭 兩辭 | 接辭 辭 將來 | 接辭 辭 想像 | 作用 下上四 段 段 段 |
| | る 用連 | ま 體連 | ら 體連 | る 體連 |
| | 二段係辭中ニ テモハ輕クシテ 其辭ノ三用フ 次モ皆此例アリ | とほま いはま きかま うたま | かくらま とふらま まらま よふらま | りみつち るるる |
| | 接辭 辭 將來 | 接辭 辭 想像 | | |
| | ま 體連 | ら 體連 | | |
| | 然已 | 然已 | | |
| | けみつち れれれれ | かくらま とふらま まらま よふらま | | |

| | | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 作用 活四 辭 段 | 接辭 辭 將來 | 作用 活四 辭 段 | 作用 活四 辭 段 | 作用 活四 辭 段 |
| む 斷截 | ん 斷截 | む 斷截 | ふ 斷截 | つ 斷截 |
| 渡残貸為 毛毛毛毛 | 鳴往聞見 んんんん | 摘倦汲住 むむむむ | 添排逢迎 ふふふふ | 滿待立打 つつつつ |
| 作用 活四 辭 段 | 接辭 辭 將來 | 作用 活四 辭 段 | 作用 活四 辭 段 | 作用 活四 辭 段 |
| む 體連 | ん 體連 | む 體連 | ふ 體連 | つ 體連 |
| わのかま たこそま | まゆきみ まきくらん | つらくま むむむむ | そはあお らふふふ | みまたう つつつつ |
| | | | | |
| せ 然已 | め 然已 | め 然已 | へ 然已 | て 然已 |
| わのかま たこそせ | まゆきみ まきくらめ | つらくま めめめめ | そはあお らへへへ | みまたう てててて |

| | | | | |
|--------------------------|--------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 接辞 嘆辞 希求辞 | 接辞 命令辞 | 接辞 命令辞 | 接辞 嘆辞 | 接辞 嘆辞 希求辞 |
| よ | ぬ | よ | よ | よ |
| 断截 鳥よ 教よ 勉めよ | 断截 往きぬ 問ひぬ 負ひぬ 過ぎぬ | 断截 習へよ 勉めよ | 断截 習へよ 勉めよ | 断截 鳥よ 教よ 勉めよ |
| 接辞 嘆辞 | 接辞 命令辞 | 接辞 命令辞 | 接辞 嘆辞 | 接辞 嘆辞 希求辞 |
| よ | ぬ | よ | よ | よ |
| 断截 | 断截 | 断截 | 断截 | 断截 |
| 二段ノ係辞ノ中 のノ結ビノ三ニ 用フ | 二段ノ係辞ノ中 のノ結ビノ三ニ 用フ | 二段ノ係辞ノ中 のノ結ビノ三ニ 用フ | 二段ノ係辞ノ中 のノ結ビノ三ニ 用フ | 二段ノ係辞ノ中 のノ結ビノ三ニ 用フ |

此とテ結ハ
餘意ヲ含メテ
ノ致ニ其格ニ
連用テ真結
辞ニ非ズ

| | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 接辞 指示辞 | 接辞 指示辞 | 接辞 指示辞 | 接辞 指示辞 | 接辞 指示辞 |
| は | は | は | は | を |
| 断截 花は 月は | 断截 花は 月は | 断截 花は 月は | 断截 花は 月は | 用連 |
| 接辞 指示辞 | 接辞 指示辞 | 接辞 指示辞 | 接辞 指示辞 | 接辞 指示辞 |
| は | は | は | は | を |
| 断截 | 断截 | 断截 | 断截 | 用連 |
| 二段ノ係辞ノ中 のノ結ビノ三ニ 用フ | 二段ノ係辞ノ中 のノ結ビノ三ニ 用フ | 二段ノ係辞ノ中 のノ結ビノ三ニ 用フ | 二段ノ係辞ノ中 のノ結ビノ三ニ 用フ | 二段ノ係辞ノ中 のノ結ビノ三ニ 用フ |

| | | | | |
|-------------------------|------------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 接辞 又 疑辞 又 疑辞 | 接辞 命令 辞 | 接辞 希求 辞 | 接辞 希求 辞 | 接辞 希求 辞 |
| や | なん | かな | かも | か |
| 断截 | 断截 開かきん 散らまん 折らまん 取らまん | 断截 | 断截 | 断截 |
| 接辞 又 疑辞 又 疑辞 | 接辞 又 疑辞 又 疑辞 | 接辞 希求 辞 | 接辞 希求 辞 | 接辞 希求 辞 |
| や | なん | かな | かも | か |
| 断截 | 断截 | 断截 | 断截 | 断截 |
| 二段ノ係辞中 のノ結ビノミニ 用フ | 二段ノ係辞中 のノ結ビノミニ 用フ | 二段ノ何ト云フ 係辞中ノイカ デノ結ビニ用フ | 二段ノ何ト云フ 係辞中ノイカ デノ結ビニ用フ | 二段ノ何ト云フ 係辞中ノイカ デノ結ビニ用フ |

| | | | | |
|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|---|
| 接辞 疑辞 又 疑辞 又 疑辞 | 接辞 反辞 | 接辞 嘆辞 | 接辞 嘆辞 疑辞 | 接辞 疑辞 |
| かや | かは | かや | かも | か |
| 断截 | 断截 | 断截 | 断截 | 断截 |
| 接辞 又 疑辞 又 疑辞 | 接辞 反辞 | 接辞 嘆辞 | 接辞 嘆辞 疑辞 | 接辞 疑辞 |
| かや | かは | かや | かも | か |
| 断截 | 断截 | 断截 | 断截 | 断截 |
| 二段ノ係辞中 のノ結ビノミニ 用フ | 二段ノ係辞中 のノ結ビノミニ 用フ | 二段ノ係辞中 のノ結ビノミニ 用フ | 二段ノ係辞中 のノ結ビノミニ 用フ | 此疑辞ハ二段中 何ト云フ係辞ヲ結 ブ辞ナリ但シ此結辞 ニハ餘意アル者トス |

| | | | | |
|-------------------------|----------------------|---------------------------------|---|---|
| 接辞 疑辞 いかは 断截 | 接辞 疑辞 なご 断截 | 接辞 指示辞 を 疑辞 よ 断截 | 接辞 指示辞 を 疑辞 や 断截 誰ぞや 我ぞや | 接辞 指示辞 を 疑辞 は 断截 誰ぞは 我ぞは |
| 接辞 疑辞 か 断截 | 接辞 疑辞 なご 断截 | 接辞 指示辞 を 疑辞 よ 断截 | 接辞 指示辞 を 疑辞 や 断截 | 接辞 指示辞 を 疑辞 は 断截 |
| 二段係辞中 のトヤトノ結 ビニ用フ | 二段係辞中 やノ結ニ用フ | 二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ | 二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ | 二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ |

| | | | | |
|---------------------------------|---------------------------|---------------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 接辞 指示辞 を 疑辞 も 断截 | 接辞 指示辞 ぞ 断截 | 接辞 指示辞 を 疑辞 や 断截 | 接辞 反辞 やは 断截 | 接辞 反辞 やも 断截 |
| 接辞 指示辞 を 疑辞 も 断截 | 接辞 指示辞 ぞ 断截 | 接辞 指示辞 を 疑辞 や 断截 | 接辞 反辞 やは 断截 | 接辞 反辞 やも 断截 |
| 二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ | 二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ | 二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ | 二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ | 二段係辞中 の結ニ用ヒ又 何係辞ヲ結フ |

接辞 指示
こそ
用連
係辞ノ
其結ヲ
省ケテ

接辞 禁止
な
断截

接辞 指示
こそ
用連
二段中ノ係
辞下ニ置テ其
結辞ヲ省ケテ

接辞 禁止
な
断截
二段係辞中
ノ結ビノミニ
用フ

形状 単辞
さ
断截
二段中ノ係
辞ヲ結テ見テ
が兼マシ月ノ
サヤケシノ類

接辞 両辞
と
用連
二段何ニ附テ
「誰ト問フ」如
ク云ハ下ノ結
ビ何ニ拘ラズ

接辞 両辞
も
用連
二段何ニ附テ
「親世も経ぬ」
ノ如ク云ハ下ノ
結ビ何ニ拘ラズ

接辞 指示
こそ
用連
こそニ附
テ「思ハレ」
ノ類ニ云フ

接辞 指示
に
用連
「聞キ」ノ
類ニ云フ

接辞 指示
と
用連
こそニ附テ
「嘆ク」ノ
類ニ云フ

接辞 指示
と
用連
「俺」ノ類
ニ云フ

接辞 指示
と
用連
「俺」ノ類
ニ云フ

接辞 過去
ぬ
断截
二段中何ノ
結辞ニ用フル
變格ナリ

接辞 過去
つ
断截
二段中何ノ
結辞ニ用フル
變格ナリ

「通ハク」知
なく等ノぬ
ふヲ伸タレ

接辞 希求
こそ
断截
二段係辞ノ
中ノ結ビノミニ
用フ

接辞 将来
な
断截
二段係辞中
ノ結ビノミニ
用フ

接辞 両辞
ど
用連
こそニ附テ
「見レ」
ノ類ニ云フ

接辞 両辞
ど
用連
こそニ附テ
「見レ」
ノ類ニ云フ

接辞 両辞
ど
用連
こそニ附テ
「見レ」
ノ類ニ云フ

接辞 希求
こそ
断截
二段係辞ノ
中ノ結ビノミニ
用フ

接辞 将来
な
断截
二段係辞中
ノ結ビノミニ
用フ

初學
初學
初學

| | | |
|----------------------------|-------------------------|------------------|
| 接辞 接辞 一種 | 接辞 接辞 一種 | 接辞 接辞 一種 |
| か か 断 断 用 用 | が が 断 断 | が が 断 断 |
| 一段ノ保 辞ノ中 ノ第ニ 徒 | | |
| | 接辞 接辞 一種 | 接辞 接辞 一種 |
| | が が 断 断 | が が 断 断 |
| | 二段ノ保 辞ノ中 ノ第ニ 用 | |

初學日本支典卷之下終

版權免許

明治十一年二月廿六日
全 年七月出版

明治二十一年三月十四日
檢定濟

著者 大分縣士族 物集高見

本郷區弓町
二丁目廿八番地

出處 東京府平民 出雲寺萬次郎

日本橋區横山町
志丁目志番地



